

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領 株主確定日	12月31日
定時株主総会	毎年3月開催
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
公告方法	公告掲載URL http://www.sbs-group.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときには、 日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

用語解説

3PLとは？

(スリーピーエル/3rd Party Logistics)

3PLは、輸送・保管・流通加工・物流システムの企画運営といった複数の物流機能を一括して請け負い、荷主であるお客様の利益に最もかなうシステムを提案するアウトソーシングサービスです。すでに米国では3PLが一般化しており、今後、国内企業物流においても、3PL市場の拡大が期待できます。



SBSホールディングス株式会社

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー
TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822



SBS ビジネスレポート

2009年12月期第2四半期報告書

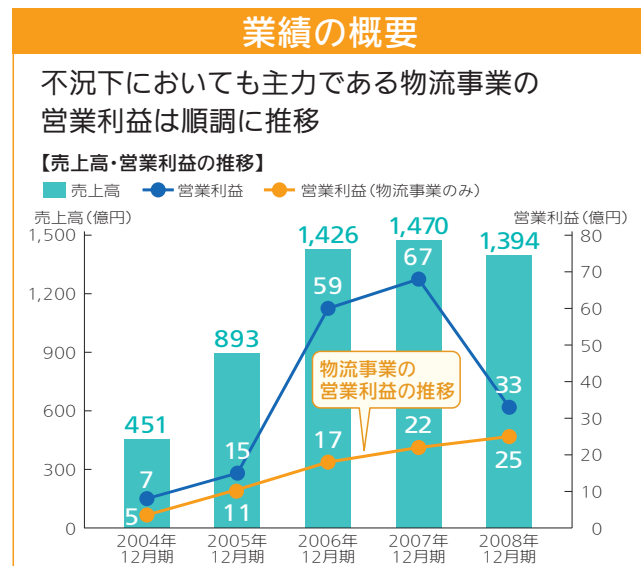
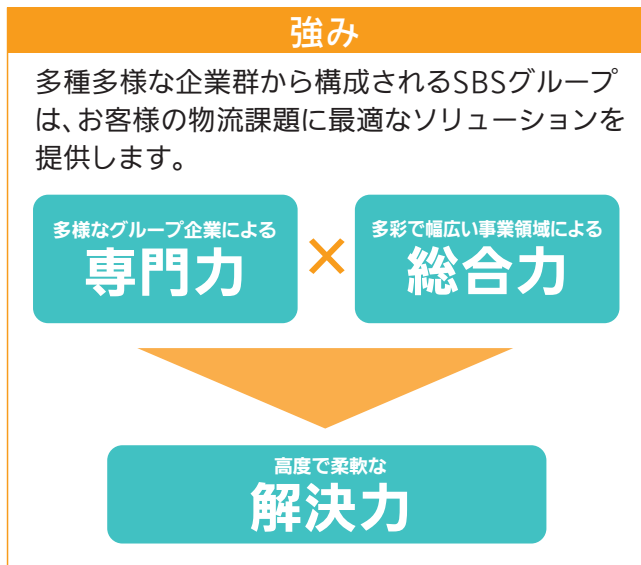
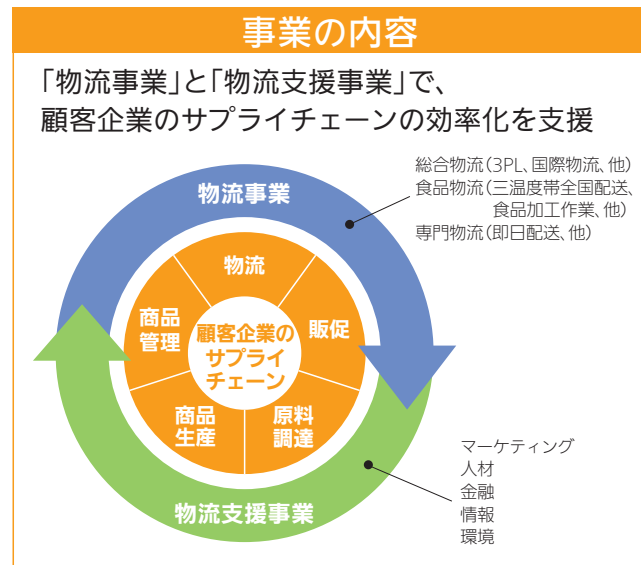
2009年1月1日～2009年6月30日

証券コード:2384



SBSホールディングス株式会社

SBSグループはお客様企業の業務効率化に貢献する「事業インフラプロバイダー」です。



- ### 当期の目標
- 3PLを中心とした物流事業の機能充実とグループ総合力強化
- #### 2009年基本方針

 - 強烈な営業展開
 - 聖域なきコストの削減
 - 人材教育への注力
 - 財務体質の強化・健全化
 - コンプライアンス及び内部統制の充実

2009年度達成目標

売上高 **1,200億円**

営業利益 **31億円**

売上高営業利益率 **2.6%**

グループの専門力、総合力を活かし品質の高い物流サービスで成長を目指します。

SBSグループでは創業以来「事業インフラプロバイダー」というコンセプトのもと、企業経営に必要な事業インフラをワンストップで提供することを目標に事業を発展させてまいりました。「経営の効率化とコア事業への集中」を支援するため、物流を中心に、マーケティング、人材、金融など、サービスを拡充した結果、設立18年目で売上1,000億円を達成、上場後5年間で売上は約7倍に達しました。

ここ数年で国内社会は情報化が飛躍的に向上し、消費者の生活スタイルも今後さらに複雑化することが予想されます。この高度化する経済に対応すべく、物流事業者にはより付加価値の高いサービスの提供が求められつつあります。

私どもSBSグループは、これらのニーズに先がけさまざまなサービスを開発・提供してまいりました。そして、その集大成として3PLサービスの提供に力を注いでおります。高度な物流はもちろん、不動産開発やシステム開発など、グループの総力を集結させ、この分野でのトップ企業を目指し、全力で取り組んでまいります。

SBSグループは今後も引き続き品質の高い物流サービスで収益拡大を図り、同時に確実な成長を果たすべく財務の安定性強化を重点課題として進めてまいりますので、今後とも末永くご支援、ご指導、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2009年9月

代表取締役社長 **鎌田 正彦**



市場環境と業績概況

当第2四半期は、深刻な経済不況の影響などにより、減収を余儀なくされましたが、中核である物流事業は落ち込みを最小限にとどめています。

減収なるも減益幅は最小限に

昨年秋の米国発による世界的な経済危機が続くなか、企業収益は大幅に悪化しており、景気は依然として厳しい状況で推移しております。このような状況下、中核である

物流事業の強化を図るため経営資源を企業間物流に集中しました。また、燃料費の低下、業務改善などの効果により、収益の落ち込みを下支えすることができました。

厳しい環境下でも食品物流は堅調に推移

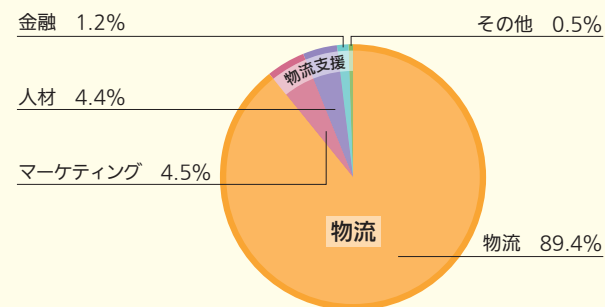
中核である物流事業は、製造業を中心に在庫調整や減産などで輸送需要が減少し厳しい経営環境に直面することとなりましたが、食品物流が比較的堅調に推移

したため、減少幅を最小限に抑えることができました。一方、物流支援事業では、需要縮小の影響で売上・利益とも厳しい結果となりました。

(単位:百万円)

	2009年第2四半期		2008年中間期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
【物流事業】				
物流	51,972	1,071	56,439	1,192
【物流支援事業】				
マーケティング	2,637	12	5,505	55
人材	2,541	88	3,301	212
金融	695	232	5,548	507
その他	299	△41	673	△121
物流支援事業合計	6,172	291	15,027	653
合計(連結消去後)	58,145	1,183	71,467	1,690

事業別売上構成比(2009年12月期第2四半期)



SBSグループ、この半年の取り組み

今後物流事業の主力となる3PL[※]。
SBSグループの強みを活かした大型3PL業務がスタートしました。

※3PLについては、裏表紙の用語解説をご覧ください。

お客様のニーズに基づき、最適な物流施設をご提供

若い世代向けの家具・生活雑貨で急成長中の小売事業者様向け基幹物流センターとして「野田物流センター」が6月から本格稼働しました。これはお客様の物流部門として物流業務を一括受託した3PLで、約8,000坪を必要とする大型案件です。SBSグループでは倉庫内での商品管理業務や全国店舗などへの輸配送はもちろん、物流管理システムなども開発・提供しました。また、最大の特徴として、用地取得からお客様に最適なセンターの設計、そして建設までもグループの物流施設開発力を活かし、一貫して行ったことです。これにより、お客様は高品質な物流機能と、最新の専用物流施設を新

たなコスト負担無く確保し、物流コストも従来に比べ大幅に削減することができました。今後もSBSグループでは、このような付加価値の高い3PLサービスを提供してまいります。



2009年3月に竣工したティールロジコム(株)野田物流センター

今後の成長に向けた4つの取り組み

国内経済の縮小により、物流業界では生き残りをかけた競争が激化しています。

SBSグループは厳しい環境下においても、将来に向けたさまざまな施策に着実に取り組んでおります。

営業力強化の取り組み

ティーエルロジコム(株)では、新しいお客様を獲得するための専門部署「営業開発本部」を設置し、積極的に新規営業活動を推進しています。従来の営業手法に加えコールセンターやインターネット、ダイレクトメールなどの多様な営業チャネルを駆使して商談発掘を行います。2月の発足以来約半年で今期目標とした新規受注20億円を達成しました。今後もさらなる上乗せを図り、さらなる新規受注獲得を目指します。



物流業には希なコールセンターによる新規顧客開拓

提案力強化の取り組み

3PLの受注には「どうしたらコストを下げられるか、配送にムダやムリがないか、リードタイムは適正か」などお客様の問題点に切り込める提案人材が不可欠です。そこで、物流をはじめ情報システム、マーケティング、財務、生産などの専門知識を学び、実際のお客様に提案活動をする、独自の3PL提案研修を開始。すでに第1期生23名が修了、1年後には100名規模の3PL提案部隊による本格的な営業活動を展開いたします。



物流コンサルレベルを目指す3PL提案研修

現場力強化の取り組み

SBSグループは2006年度より改善活動を本格導入。これまでに延べ592事業所で744の改善活動に取り組み、生産性や品質の向上に成果を上げています。昨年から参加した「全日本物流改善事例大会※」では2年連続受賞を果たすなど外部からも高い評価を受けました。今後も160名を超える改善リーダーを輩出した研修の充実を図るなど改善活動推進による現場力強化に努め、お客様にローコストで高品質なサービスを提供してまいります。

※日本ロジスティクスシステム協会などの主催で毎年1回4月に開催される物流業界の改善事例発表・表彰の場



「全日本物流改善事例大会2009」で最優秀賞にあたる「物流合理化賞」を受賞

環境・安全配慮の取り組み

SBSグループは、環境保全と安全に配慮した物流サービスを一層充実させるため、エコドライブの推進を開始しました。エコドライブは燃料使用量の削減に有効でCO₂などを減らす環境に優しい運転方法で、かつ安全運転につながります。今年からエコドライブを体感する研修会を定期的で開催し、2年後までにグループ全ドライバーの10%程度となる約300名のエコ安全ドライブリーダーを育成して、その指導・徹底を図ります。



テストコースを走行しエコドライブの技術を修得



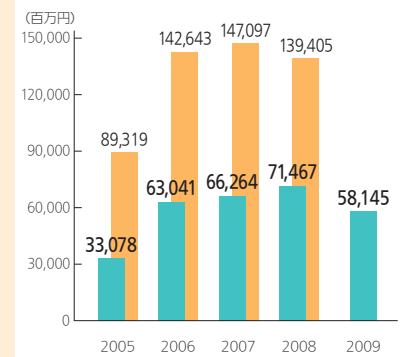
グループワークでエコ推進の取り組みを検討

財務ハイライト

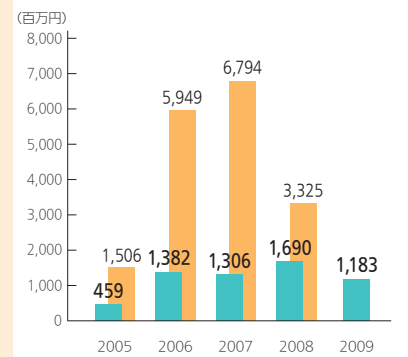
CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

SBSビジネスレポート 2009

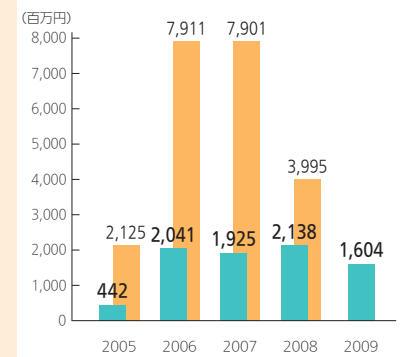
売上高



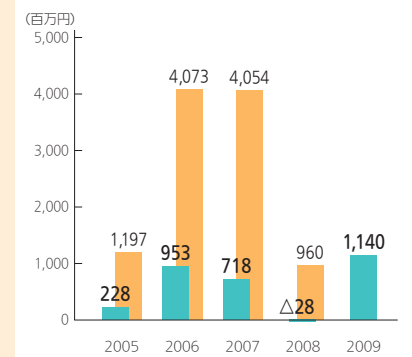
営業利益



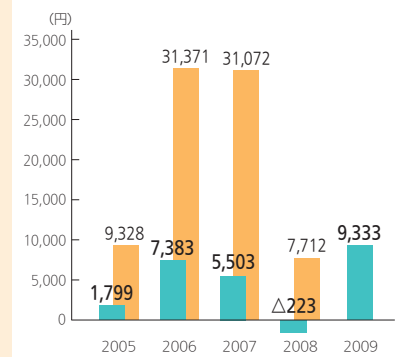
経常利益



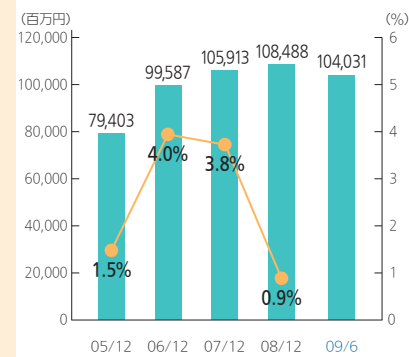
四半期(当期)純利益



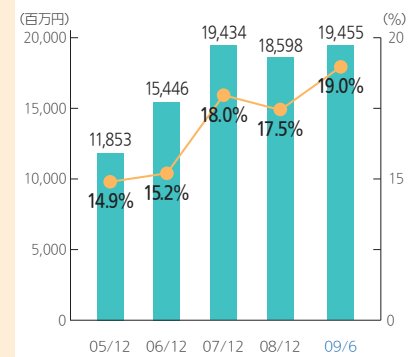
1株当たり四半期(当期)純利益



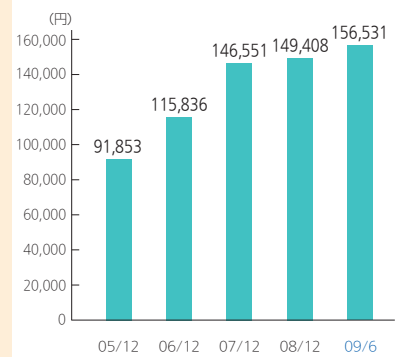
総資産/ROA



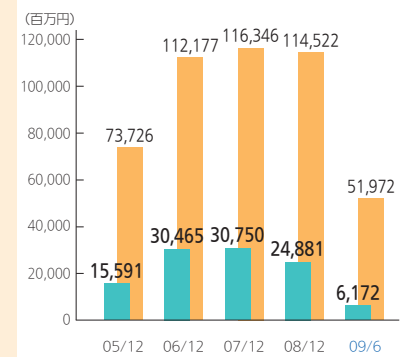
純資産/株主資本比率



1株当たり純資産



セグメント別売上高



連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

SBSビジネスレポート 2009

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2009年6月30日現在	前期末 2008年12月31日現在
【資産の部】		
流動資産	41,651	45,997
現金及び預金	11,471	14,851
受取手形及び売掛金	12,791	16,347
たな卸資産	15,072	12,801
有価証券	410	10
その他	1,971	2,075
貸倒引当金	△ 65	△ 89
固定資産	62,380	62,490
有形固定資産	54,860	55,446
建物及び構築物(純額)	14,747	15,081
機械装置及び運搬具(純額)	5,694	6,009
土地	33,807	33,804
その他(純額)	609	551
無形固定資産	564	544
投資その他の資産	6,955	6,500
投資その他の資産	7,350	6,874
貸倒引当金	△ 394	△ 374
資産合計	104,031	108,488

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2009年6月30日現在	前期末 2008年12月31日現在
【負債の部】		
流動負債	46,535	50,123
支払手形及び買掛金	6,874	8,473
短期借入金	26,590	28,540
その他	13,071	13,110
固定負債	38,040	39,766
社債	1,560	120
長期借入金	24,581	26,881
その他	11,898	12,765
負債合計	84,576	89,890
【純資産の部】		
株主資本	19,859	18,999
資本金	3,833	3,833
資本剰余金	5,418	5,418
利益剰余金	11,394	10,535
自己株式	△ 787	△ 787
評価・換算差額等	△ 731	△ 742
その他有価証券評価差額金	△ 568	△ 559
繰延ヘッジ損益	△ 162	△ 182
新株予約権	3	3
少数株主持分	324	338
純資産合計	19,455	18,598
負債純資産合計	104,031	108,488

総資産は現金及び預金、受取手形及び売掛金などの減少により1,040億31百万円と、前期末から44億57百万円の減少となりました。
負債合計は前期末に比べ53億13百万円減少しました。支払手形及び買掛金が15億99百万円、短期借入金が19億50百万円の減少となっています。一方、純資産は8億56百万円増加しました。配当金の支払い2億81百万円があった一方、四半期純利益が11億40百万円になったことなどによるものです。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

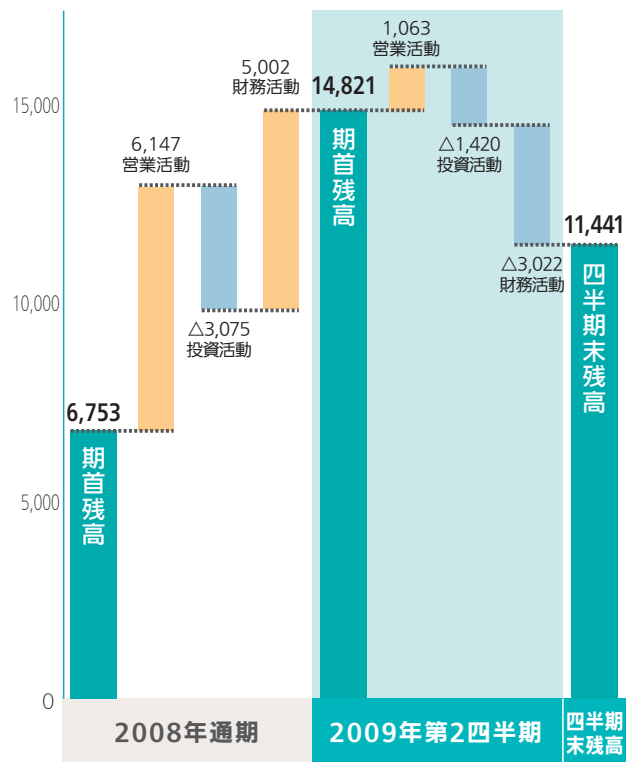
科目	当第2四半期 2009年1月1日から 2009年6月30日まで	前中間期 2008年1月1日から 2008年6月30日まで
売上高	58,145	71,467
売上原価	52,865	65,321
売上総利益	5,279	6,146
販売費及び一般管理費	4,096	4,456
営業利益	1,183	1,690
営業外収益	899	902
営業外費用	478	454
経常利益	1,604	2,138
特別利益	351	853
特別損失	269	1,892
税金等調整前四半期純利益	1,686	1,099
法人税、住民税及び事業税	515	1,193
法人税等調整額	22	△ 84
法人税等合計	538	1,108
少数株主利益	8	19
四半期純利益(又は純損失)	1,140	△ 28

【損益計算書】

四半期純利益は11億40百万円と、前中間期の損失から利益を確保しました。投資有価証券評価損、減損損失などの計上により前中間期は18億92百万円あった特別損失が16億23百万円減少したことなどによるものです。

四半期連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)



【キャッシュ・フロー】

売上債権の減少、減価償却費などにより営業活動で得られた資金は10億63百万円となりました。投資活動では固定資産・有価証券の取得などに14億20百万円を使用し、財務活動では社債発行にて資金調達を行った一方、借入金の返済などを行ったため30億22百万円の資金を使用しました。これらの結果、当第2四半期期末残高は前期末から33億79百万円減少しました。

会社概要 (2009年6月30日現在)

社名 SBSホールディングス株式会社
 代表取締役 鎌田 正彦
 創立 1987年12月16日
 資本金 38億3,393万円
 売上高 1,394億円(2008年12月期連結決算実績)
 所在地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3
 TEL: 03-3829-2222(代表)
 FAX: 03-3829-2822

事業内容 物流事業、マーケティング事業、人材事業 他
 主要連結子会社 ティーエルロジコム(株)、フーズレック(株)、(株)全通、SBSロジテム(株)、(株)フォワード、(株)ぱむ、SBSスタッフ(株)、(株)エーマックス、SBSファイナンス(株)、(株)ソルス、(株)総合物流システム

※SBSポストウェイ(株)は、平成21年3月末日に、その全株式を(株)JBFパートナーズに譲渡したことにより、連結対象から除外となりました。

役員 (2009年6月30日現在)

代表取締役社長 鎌田 正彦 常勤監査役 若林 民雄
 常務取締役 入山 賢一 監査役 米田 樹一
 取締役 宮坂 文昭 監査役 正松本 重孝
 取締役 渡邊 進一郎 監査役 竹田 正人
 監査役のうち、正松本重孝、竹田正人は社外監査役です。

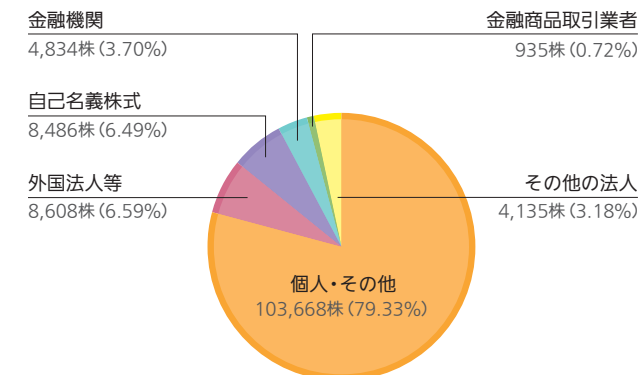
株式の状況 (2009年6月30日現在)

発行可能株式総数 515,684株
 発行済株式の総数 130,684株
 単元株制度の有無 無
 株主数 4,088名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
鎌田 正彦	64,128	49.07
SBSホールディングス株式会社(自己保有株式)	8,486	6.49
ジェイピー モルガン クリアリング コーポセク	4,441	3.39
伊達 寛	4,348	3.32
SBSホールディングス従業員持株会	3,153	2.41
大内 純一	3,094	2.36
吉岡 博之	1,889	1.44
株式会社スリーイーコーポレーション	1,560	1.19
ザチエースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	1,348	1.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,178	0.90

所有者別株式分布状況



ホームページのご紹介

IR情報、IRに関するお問い合わせに当社ホームページをご活用ください。



<http://www.sbs-group.co.jp>